

経済水道委員会 10/6 10:00~

令和2年度 決算説明資料

令和3年10月6日
観光文化交流局

目 次

頁

1	ロゲイニングによる魅力資源発信事業	1
2	観光案内機能のあり方検討調査	2
3	ナゴヤ文化芸術活動緊急支援事業	3
4	(公財) 名古屋フィルハーモニー交響楽団の公演回数及び来場者数	4
5	市民会館の改築に向けた基本構想の策定	6
6	県指定文化財伊藤家住宅の保存・活用	8
7	名古屋城の入場者数の推移	9
8	名古屋城の管理運営にかかる支出、収入の推移	10
9	重要文化財等展示収蔵施設の整備に関する執行状況	11
10	金シャチ横丁第二期整備調査(芝居小屋風多目的施設)の概要	12
11	金シャチ横丁第二期整備調査(展示施設)の概要	13
12	木造天守閣の昇降に関する新技術の公募	14
13	実施設計	17

1 ロゲイニングによる魅力資源発信事業

(1) 趣旨

野外スポーツの一種である「ロゲイニング」の手法を用いて、地域への回遊性や魅力資源の認知度向上を図るとともに、参加者自らが名古屋の魅力の共感者・魅力発信の担い手となり、大会開催後に各スポットを再訪していただけるような仕組み作りをすることで、観光客の誘致を図る

(2) 開催実績

区 分	実 施 日	参加者数
平成30年度	9月29日 (9月30日)	208人
令和元年度	11月 3日	472人
令和2年度	11月23日	616人

注 平成30年9月30日は、台風により中止

(3) 参加者の主な意見

- ・回り方を考えたり、時間を調節したりすることが難しかった
- ・コツをつかめばもっと上手く回れた
- ・最近の運動不足の解消につながった
- ・名古屋の知らないところをたくさん知ることができてよかった
- ・名古屋のことがもっと好きになった
- ・またゆっくり訪れてみたい

2 観光案内機能のあり方検討調査

(1) 概要

リニア中央新幹線の開業等を見据え、名古屋駅観光案内所をはじめとする市観光案内所等の案内機能の強化を図るため、他都市事例の調査や観光関係者等からの意見聴取を行い、「今後の検討の方向性」を整理した

(2) 今後の検討の方向性

市観光案内所については、今後、リニア中央新幹線の開業により形成される新たな交流圏の拠点に相応しい観光案内所にするため、以下の方向性を基に、望ましい機能強化について検討を進める

- ・ 観光客にとってわかりやすく、利用しやすい場所への設置
- ・ 利用者ニーズをとらえた案内サービスの多様化による利便性向上
- ・ 十分な案内サービスの提供に必要な施設規模の確保
- ・ 民間事業者との連携による観光案内サービスレベルの向上

3 ナゴヤ文化芸術活動緊急支援事業

区 分	予 算 額	財 源	補助内容	募集 人数	申請方法
本 市	千円 100,000	市民文化振興事 業積立基金	動画作品の制作に 対して1人あたり 10万円	人 900	メール又は 郵送
福岡市	58,000	新型コロナウイルス 感染症対応 地方創生臨時交 付金	動画作品の制作に 対して1人あたり 10万円	500	メール又は 郵送
東京都	2,700,000	一般財源	動画作品の制作に 対して1人あたり 10万円	20,000	ウェブサイ トを通じて 申請

4 (公財) 名古屋フィルハーモニー交響楽団の公演回数及び来場者数

(1) 公演回数

(単位：回)

区 分	平成30年度	令和2年度
定期演奏会	27	19
巡回演奏会	8	10
移動音楽教室	31	13
特別演奏会	17	11
依頼演奏会	22	6
計	105	59

(2) 定期演奏会1回あたりの平均来場者数

(単位:人)

区分	平成30年度	令和2年度
4月	1,244	中止
5月	1,225	中止
6月	1,425	中止
7月	1,381	603
8月	1,878	693
9月	1,462	608
10月	1,740	648
11月	1,398	740
12月	1,418	612
1月	1,285	516
2月	1,437	726
3月	1,214	890
年間	1,395	660

注 平均来場者数は、小数点以下切り捨てで算出

5 市民会館の改築に向けた基本構想の策定

(1) 趣旨

昭和47年に開館し、施設の老朽化が著しい市民会館について、近年、市内の大・中規模ホールが相次いで閉館している現状を踏まえ、整備検討懇談会を実施し、新たな劇場の整備に向けた基本構想の策定等を進めるもの

(2) 新たな劇場の基本構想（素案）

ア 基本理念

区 分	内 容
ミッション	<p>文化芸術の裾野拡大（劇場文化の浸透）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術に対する市民の興味を喚起し、これまで劇場に関心がなかった市民にもその魅力を届け、劇場文化を市内に幅広く浸透させる
位置づけ	<p>人々が楽しみ、引き込まれ、心打たれる文化の薫り高い名古屋の心つながる象徴拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市の文化芸術を象徴するランドマークとなり、国内外から多くの人々が訪れるデスティネーションを目指す ・実演者・鑑賞者だけでなく、市民にとって「名古屋の誇り」となる ・「文化芸術が活きるまち名古屋」の中核施設として市内の文化振興をけん引
役 割	<ul style="list-style-type: none"> ・ポップからハイカルチャーまで、より多くの人々が興味を引き起こされる公演の上演施設 ・市民の多様な文化活動を支え、促進する、名古屋発／初文化の中核となる施設 ・市民が気軽に訪れる、人と文化の交流結節拠点

イ 新たな劇場の施設構成 (案)

区 分	主な内容
第1ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2,000～2,200席 ・ 軽音楽、クラシック等
第2ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1,300～1,500席 ・ 邦舞、洋舞等
第3ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 800～900席 ・ 演劇等
ホール以外 の施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ リハーサル室、練習室等 ・ 共有空間 (フリースペース等) ・ 隣接施設 (カフェ、公園等)

ウ 敷地における整備方針

市民会館街区及び古沢公園街区を活用し、ホール機能、創造・活動拠点機能、交流機能、公園・広場及び民間施設 (商業等) の整備を検討

注 令和2年11月16日第7回市民会館の整備検討懇談会時点

6 県指定文化財伊藤家住宅の保存・活用

(1) 取得した理由

- ・伊藤家住宅は、城下町の面影を残す「四間道町並み保存地区」において、江戸時代に遡る町家や土蔵が一体で残り、昭和62年に県指定有形文化財にも指定されている、尾張商家の屋敷構えを今に伝える貴重な歴史的建造物であるため
- ・所有者の高齢化に伴い、長い間空き家となっており、建造物の老朽化が進む中で維持管理が困難となり、除却せざるを得ない状況であったため
- ・四間道・那古野界隈は名古屋駅・名古屋城や堀川に近く、本市の観光戦略上でも大変重要な地域であることから、伊藤家住宅を地域の共有財産として、その価値を大切に守りながら本市の歴史文化を発信する施設として公開活用していくため

(2) 保存活用計画の検討内容

区分	検討内容
保存管理計画	文化財として保存すべき建造物の部分及び部位ごとの保護方針
環境保全計画	敷地内の景観及び環境の保全を目的とした敷地区分ごとの保全方針
防災計画	文化財建造物としての防火対策や耐震診断に基づく耐震補強における課題

(3) 追加調査の内容

伊藤家住宅に残されていた古文書や図面等の記録をもとに、各年代ごとに行われてきた建造物の改変の状況及び改変前の痕跡を確認し、伊藤家住宅の変遷過程と文化財としての評価を明らかにするための調査を実施

7 名古屋城の入場者数の推移

(単位：人)

区分	令和元年度	令和2年度
4月	282,561	10,775
5月	226,278	199
6月	139,213	21,208
7月	134,635	30,302
8月	222,148	25,423
9月	166,354	46,333
10月	189,577	55,784
11月	210,298	90,109
12月	129,109	31,957
1月	170,855	20,559
2月	120,341	25,942
3月	44,902	165,021
計	2,036,271	523,612

注 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年4月10日から5月31日まで臨時休園を実施（令和2年5月29日のプレオープンを除く）

8 名古屋城の管理運営にかかる支出、収入の推移

(1) 支出

(単位：千円)

区 分	令和元年度	令和2年度
職員の人件費	139,441	142,006
運営管理	547,644	606,179
天守閣閉館中の魅力向上事業	133,274	57,600
季節行事等催物の実施	15,207	26,192
計	835,566	831,977

注 職員の人件費は、保存整備室、調査研究センター分を除く

(2) 収入

(単位：千円)

区 分	令和元年度	令和2年度
使用料	838,707	235,212
名古屋城観覧料	816,286	217,014
その他使用料	22,421	18,198
諸収入等	30,473	9,890
計	869,180	245,102

9 重要文化財等展示収蔵施設の整備に関する執行状況

(単位：千円)

区 分	内 容	令和元年度	令和2年度
外構 工事	・アスファルト舗装、縁石、 排水施設、フェンス設置 等	32,000	54,799
その他	・き損地点の調査及び修復 ・工事一時中止に伴う現場の維持 管理	—	11,136
	計	32,000	65,935
	合 計		97,935

10 金シャチ横丁第二期整備調査（芝居小屋風多目的施設）の概要

(1) 目的

金シャチ横丁構想に基づき芝居や催しなどの上演ができ、名古屋の食文化・生活文化を堪能できる空間の具体化に向けて、芝居小屋風多目的施設の整備に関する調査検討を行う

(2) 関連する団体や事業者へのこれまでのヒアリング調査

ア 対象及び実施数

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	演者	興行者	観光事業者	喫茶事業者	実演団体	施設運営者
実施数	3	3	2	3	4	5

イ 主な意見

区分	内容
実演団体	・物品販売や展示ができる十分なスペースのあるホワイエがあるとよい
施設運営者	・演劇練習館のような場所は需要が高く貸し出しをしてはどうか ・100席前後のホールは少なく、需要があると感じる ・200席程度の休憩所を整備することで、バス利用者（団体客）が受け入れ可能となる ・夏や冬等の厳しい気候条件下にも対応できる施設が良い
観光事業者	・芝居上演がないときの面白い仕掛けが重要
喫茶事業者	・夜間営業を可能にしてほしい ・中高校生の「吹奏楽」を誘致して成功した事例がある
興行者	・映像機器があるとよい

(3) 調査結果を踏まえて想定される機能等

- ・バス利用者（団体客）でもまとまって食事をとり、くつろぐことができる休憩場所
- ・伝統芸能を上演でき、間近で観覧できる舞台設備や栈敷席
- ・金シャチ横丁を含む周遊観光客が利用できるトイレ
- ・映像ビジョン設置による、名古屋城を中心とした市内の観光情報の発信
- ・木建具や木の格子を設置するなど芝居小屋をイメージ

1.1 金シャチ横丁第二期整備調査（展示施設）の概要

(単位：千円)

区 分	主 な 内 容	金 額
施設 調査	広域的な事例調査 ・理念や規模、立地等が類似する約100事例の概略調査 ・上記のうち、特に参考になりそうな5事例のヒアリング調査 名古屋城観光に必要な便益施設の調査検討	3,454
収蔵品 調査	名古屋城収蔵資料の撮影および実測調査	3,341
計		6,795

1.2 木造天守閣の昇降に関する新技術の公募

(1) 公募支援業務内容

当初予定	実施内容
・公募準備 ・公募開始 ・一次審査 ・補助金交付	・公募準備（スキームの変更の検討、 安全性評価取得手法の検討）

(2) 公募スキームの変更内容

区分	令和2年度当初	変更後(案) (参考)
考え方	竣工時期の見通しを立てた上で令和2年度に公募開始	復元検討委員会に向けた全体計画にバリアフリーの方針を反映するため、準備が整い次第公募開始
公募スキーム	<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; right: 0; top: 50%; transform: translateY(-50%);">公募期間 (約1年9か月)</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; right: 0; top: 20%;">公募期間 (約9か月)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; position: absolute; right: 0; top: 50%; transform: translateY(-50%);">バリアフリーの方針を全体計画に反映</p>

注 変更後(案) は令和3年9月末現在

(3) 公募概要

ア 目的

公募によりできるだけ多くの方が使用できる昇降技術を募り実用化することで、史実に忠実な復元とバリアフリーの両立を実現

イ 選定方法

(ア) 求める昇降技術

大天守の内部を垂直に昇降する技術、大天守の階段を直接昇降する技術、外部から直接大天守1階以上に入城できる技術等、幅広く技術を募集

(イ) 主な条件

- ・大天守の柱、梁を傷めないこと
- ・大天守1階まで昇ることを必須とし、可能な限り上層階まで昇ることができること

(ロ) 公募への高齢者、障害者等の参画

令和2年の「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」の改正において、歴史的建造物を再現する場合等におけるバリアフリー整備の在り方について、高齢者、障害者等の参画の下検討が行われるよう、必要な措置を講ずることとされた趣旨を鑑み、提案された昇降技術に対し、高齢者、障害者等からの意見を踏まえ、昇降技術の選定を実施

(ハ) 審査方法

- ・様々な分野の有識者である評価員が、提案された昇降技術に対して、書類審査及びプレゼンテーション審査を実施
- ・評価員は、事前に定めた審査基準に沿って評価を行い、その評価に基づいて昇降技術を選定

(参考) 今後の進め方

公募により昇降技術を選定し、その選定内容を含めた木造天守全体のバリアフリーの方針を全体計画に反映

1.3 実施設計

(1) 予算現額と支出済額

(単位：千円)

区 分	金 額	うち令和元年度からの繰越明許費
予算現額	220,000	131,000
支出済額	25,737	2,000

(2) 内訳（令和元年度からの繰越明許費を除く）

(単位：千円)

区分	設計業務		調査業務	
	事項	金額	事項	金額
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 設計図作成 現状変更許可書類作成 	4,521	<ul style="list-style-type: none"> 史実調査 石垣調査 	19,216
繰越内容	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 地盤調査 	61,000
不用額	<ul style="list-style-type: none"> 設計図作成 現状変更許可書類作成 	4,263	-	-

注 繰越内容は令和3年度への繰越明許費

(3) 内訳（令和元年度からの繰越明許費）

(単位：千円)

区分	設計業務		調査業務	
	事項	金額	事項	金額
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 設計図作成 	1,200	<ul style="list-style-type: none"> 史実調査 	800
不用額	<ul style="list-style-type: none"> 設計図作成 	98,800	<ul style="list-style-type: none"> 史実調査 	30,200